

## 平成 26 年度 肝属川学識者懇談会 議事概要

○開催日時：平成 26 年 8 月 18 日（月） 15:00～17:00

○開催場所：大隅河川国道事務所 3 階大会議室

○主な意見等（青字は事務局からの回答）

### 【資料 3：肝属川水系河川整備計画の点検について】

- ・整備計画では概ね 30 年に 1 度の俣瀬地点 2,000m<sup>3</sup>/s を目標にするということだが、目標規模を上げることは考えていないのか。
- ・整備計画では 30 年で 2,000m<sup>3</sup>/s を目標としているが、将来的には整備方針の中で 100 年に 1 度の雨でも耐えうる河川整備を行っていく。
- ・目標流量 2,000m<sup>3</sup>/s に対し、平成 17 年 9 月の洪水は 1,830m<sup>3</sup>/s ということだが、これは何年に 1 回に相当するのか。
- ・概ね 1,800m<sup>3</sup>/s で、外水氾濫は行っていないが内水氾濫が生じており、これを戻すと約 2,000m<sup>3</sup>/s であり、これが概ね 30 年に 1 回の洪水である。
- ・水質に関して何か問題はないのか。
- ・BOD75%値では環境基準値を守るか守らないかのところであるが、12 月～2 月の水量が少ない時期の個々のデータを見ると環境基準値を上回っているため、まだ目標を達成できていないと感じている。行政だけでは限界があり、今後は地域の協力も得て目標に近づけていきたい。
- ・3 号排水路の接触爆気装置は稼働しているのか。
- ・水質が悪い 10 月～3 月の半年間稼働させている。
- ・過去の調査結果では流量が多い深夜に BOD にすると 150～200 程度のものが一気に出てくることがある。こういうことが頻繁に起こればいくら浄化しようとしても装置がパンクする。実際に規則を守っていないところには、行政が直接出向いて指導するようなことも必要である。
- ・そういうことをやってはいけないと地域の皆が思ってくれることが、一番よいと考えている。そういうアイデアを含めご指導いただきたい。
- ・刈草を配布しているとのことだが、どれくらい発生しどのように利用されているか。
- ・刈草の面積は流域内で 2 百万 m<sup>2</sup> くらいである。
- ・有効利用率はどれくらいか。家畜のほうに利用されているのが多いと思うが。
- ・数年前までは全てリサイクルしていたが、最近はたばこ農家の廃業等で減ってきている状況である。

- ・浸透に対する安全基準というのがあるが、シラス固有で判定基準があるのか。
- ・安全基準を変えているということはない。あくまで計算の段階で土質定数が変わるということだけである。
- ・下谷川合流点の早瀬や淵の創出はすごくいい案である。肝属川は蛇行の非常に多い川だったが、これを直線化し、良い淵や瀬が無くなってしまった。生き生きとした川づくりを少しずつ広げて頂きたい。最初に視察したシラス堤対策箇所の対岸には竹があり、意識的に残されたものだと思うが、このような環境は川らしい川であり非常に重要である。対照的なのがシラス堤対策のための斜面が人工的な芝で覆われているが、川と言いたくなくなるような状況である。必要なところは仕方ないが、環境にも力を入れて頂きたい。
- ・樹木に関しては全てを残すことはできないが、間引くなどをして治水上の課題を満足していきたい。

#### 【資料 4、5：肝属川直轄河川改修事業再評価について】

- ・資料－4、5 ページの整備計画規模、基本方針規模の洪水は何分の一か。
- ・整備計画規模 1/30、基本方針規模 1/100 である。
- ・資料－4、6 ページの黒の箇所は施工が終了している箇所なのか。
- ・黒のところは終了している。赤の部分が当面の計画であり、緑の箇所も整備計画の 30 年間で実施する。
- ・資料－4、4 ページの費用対効果が前回と今回で両方 1.3 となっているのはたまたまなのか。
- ・30 年間の実施メニューは同じであり、事業実施が早くなったり遅くなったりすることで現在価値化の値が動くだけで、比率は同じである。
- ・ガスと電力の停止はどのように評価されているのか
- ・電力はコンセント位置や変電所等の高さと湛水深の関係で、ガスについては電気制御のメーター位置と湛水深の関係で、被害の有無を積算している。
- ・資料－5、3 ページにブロックの中の被害が最も大きい地点の被害額とあるが、どういう考え方か。
- ・各ブロックの中で最も被害が大きくなる地点を当該ブロックの破堤箇所として選定し、ブロックの被害額を算定している。

(以上)